

●児童館

1. 施設概要

児童館は、児童に健全な遊びを与え、健康な身体の育成と豊かな情操を養うとともに児童福祉の向上を目的とした施設です。乳幼児親子から小学生、中学生、高校生世代が施設を訪れ、地域に根差した多種多様な事業に参加するなどして過ごす施設です。

(1) 施設一覧

児童館は市内に4館あります。そのうち、3館は学童保育所と併設しており、1館は貫井南センター内にあり、公民館分館と併設しています。

延床面積をみると、最も小さい本町児童館の354.7㎡から最も大きい貫井南児童館の412.1㎡までとほぼ同程度の規模となっています。

表 施設一覧

名称	住所	延床面積 (㎡)	建築年度 (年度)	併設施設		備考
				公民館	学童保育所	
1 本町児童館	本町5-4-25	354.74	昭和57		●	
2 東児童館	東町4-25-7	386.71	昭和62		●	
3 貫井南児童館	貫井南町4-3-23	412.05	昭和47	●		貫井南センター内
4 緑児童館	緑町4-18-25	391.25	昭和61		●	
合 計		1,544.75	—	—	—	

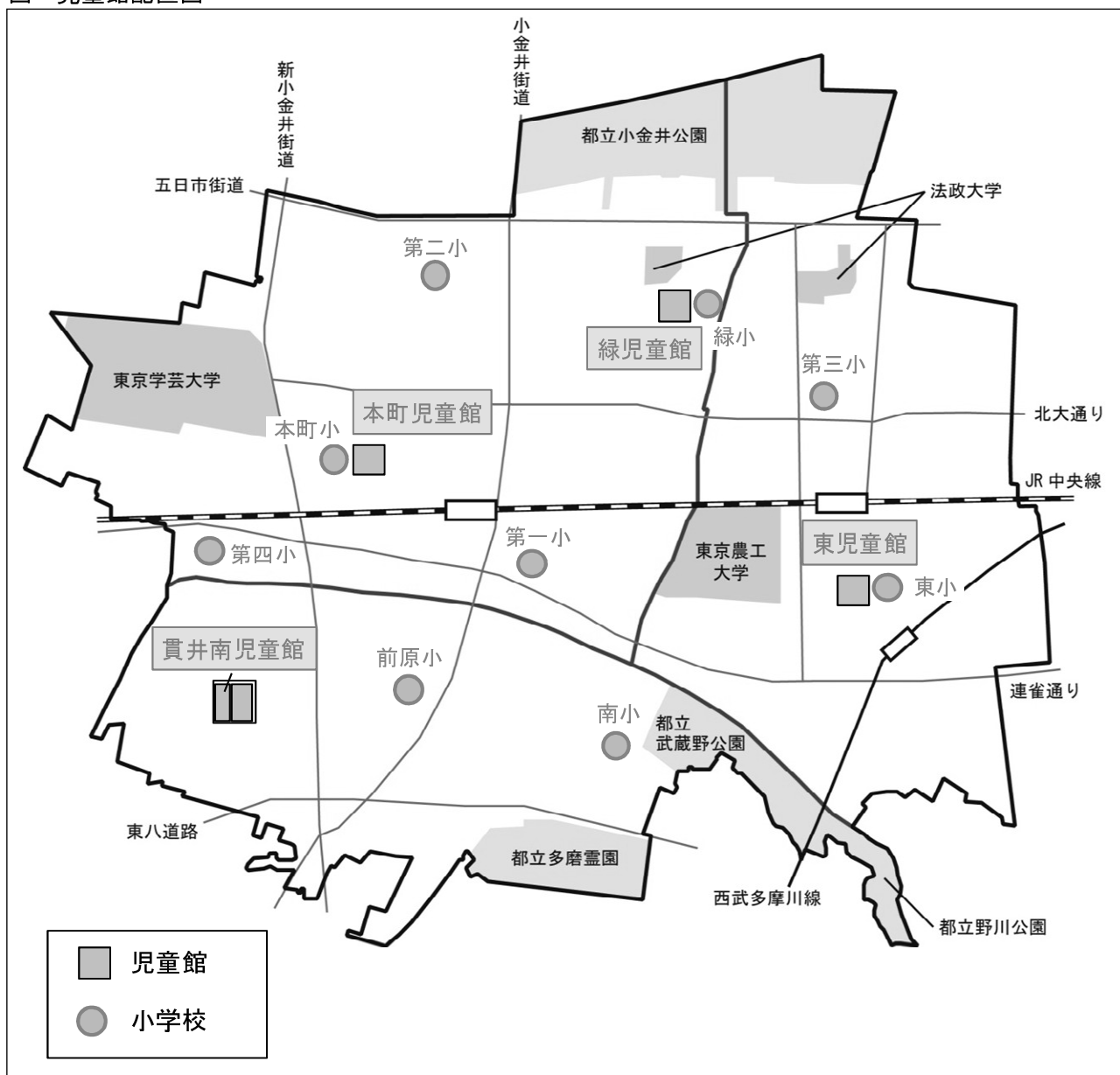
(2) 開館日、開館時間

- 開館時間 : 午前9時から午後5時まで (東児童館は午後6時まで)  
ただし、開館時間延長期間は午前9時から午後5時30分まで
- 休館日 : 日曜・祝日 (5月5日を除く)、5月6日、毎月末日、年末年始、5月5日又は同月6日が日曜日に当たる時は、同月7日
- 年間開館日数 : 281日 (平成22年度)

(3) 配置状況

児童館は、市内に4館配置しており、本町児童館、東児童館、緑児童館の3館は学童保育所と併設しています。

図 児童館配置図



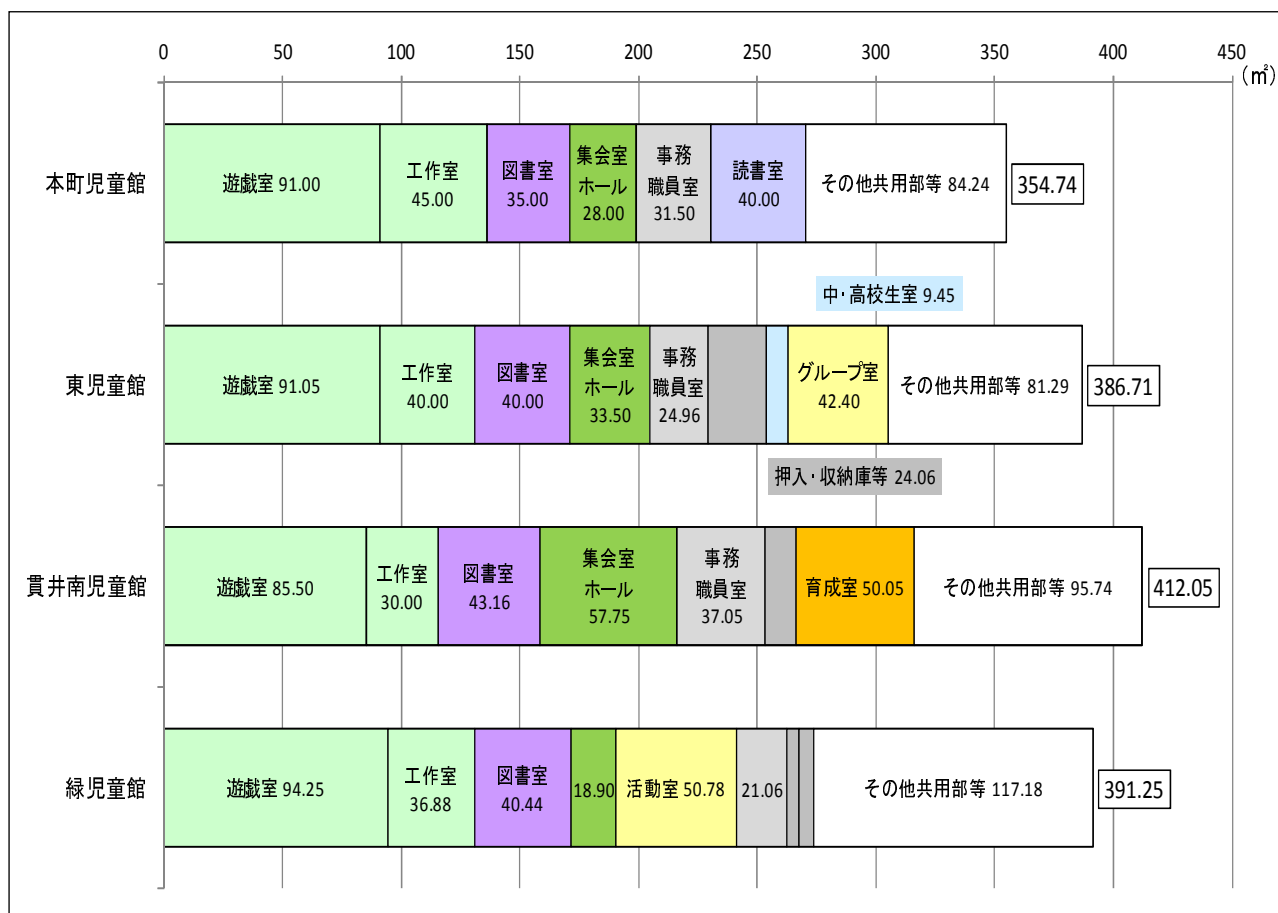
(4) スペース構成

児童館の規模は、最も小さい本町児童館の 354.7 m<sup>2</sup>から最も大きい貫井南児童館の 412.1 m<sup>2</sup>までで、ほぼ同程度です。1館当たりの平均は約 386.2 m<sup>2</sup>となります。

保有しているスペースは、遊戯室、工作室、図書室、集会室及び事務室を中心としており、本町児童館の読書室や東児童館、緑児童館のグループ室、貫井南児童館の育成室等、施設によって独自に保有しているスペースもありますが、4館ともほぼ同様のスペース構成となっています。

全4館中3館は児童館スペースに学童保育所面積が203.4 m<sup>2</sup>~296.9 m<sup>2</sup>併設しています。

図 スペース構成



※「その他共用部等」は学童保育所との共用部面積按分による。

## 2. 実態把握

### (1) 建物状況

#### ① 児童館の評価結果

児童館4館は全て耐震安全性が確保されています。

最も古い貫井南児童館は平成20年度に耐震安全性の確保を行い、同時に大規模改修を行っています。その他の3館は築22年から28年経過しており、今までに外壁塗装や屋上防水、内装等の経年劣化した部分の修繕を行ってきています。築30年を経過すると大規模改修が必要な時期となるため、今後、大規模改修等の検討・計画が必要となります。

大規模改修時にはバリアフリー対応や省エネ・断熱化等の環境対応も検討する必要があります。

図 建物総合評価結果

評価	パターン③ 今後 老朽化	パターン④ バリアフリー・環境対応												
	<p>・老朽化が進行している。 ⇒今後、老朽化対策の検討が必要な施設</p>	<p>・バリアフリー、環境対応が未完了 ⇒今後、バリアフリー又は環境対応が完了していない部分の整備が望まれる施設</p>												
該当施設	<table border="1"> <thead> <tr> <th>該当施設</th> <th>建築年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本町児童館</td> <td>昭和57</td> </tr> <tr> <td>東児童館</td> <td>昭和62</td> </tr> <tr> <td>緑児童館</td> <td>昭和61</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt; 3 施設 &gt;</p>	該当施設	建築年	本町児童館	昭和57	東児童館	昭和62	緑児童館	昭和61	<table border="1"> <thead> <tr> <th>該当施設</th> <th>建築年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貫井南児童館</td> <td>昭和47</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt; 1 施設 &gt;</p>	該当施設	建築年	貫井南児童館	昭和47
該当施設	建築年													
本町児童館	昭和57													
東児童館	昭和62													
緑児童館	昭和61													
該当施設	建築年													
貫井南児童館	昭和47													
コメント	<p>・いずれも新耐震基準の建物ですが、築20年を超えており、計画的な老朽化対策の検討が必要です。</p>	<p>・大規模改修を実施していますが、バリアフリー又は環境対応が完了していないため、計画的な改修や効率のよい設備の導入などの対応が必要です。</p>												

(2) 利用状況

① 年間の利用状況

平成 22 年度の市全体の利用者数は 10 万 5,401 人、運営日 1 日当たり約 375 人となっています。利用者別の内訳をみると、幼児 2 万 14 人及びその保護者（大人）2 万 4,970 人で全体の約 43%を占めています。また、小学生（1～3 年生）2 万 2,535 人及び小学生（4～6 年生）2 万 8,871 人で全体の約 49%を占めています。この 4 区分で全体の約 92%を占めています。

平成 17 年度からの利用者数の推移をみると、平成 17 年度 9 万 2,385 人から平成 22 年度 10 万 5,401 人まで 1 万 3,016 人（約 14%）増加しています。

平成 22 年度の施設別の利用者数をみると、貫井南児童館の 2 万 2,150 人が最も少なく、東児童館の 3 万 2,390 人が最も多くなっています。最も多い東児童館は乳幼児向けの「子育てひろば」事業を月曜日から土曜日の常設で行っているため、他の施設と比べ、幼児及びその保護者（大人）の利用者の割合が多く、約 48%となっています。

図 利用者別利用者数の推移

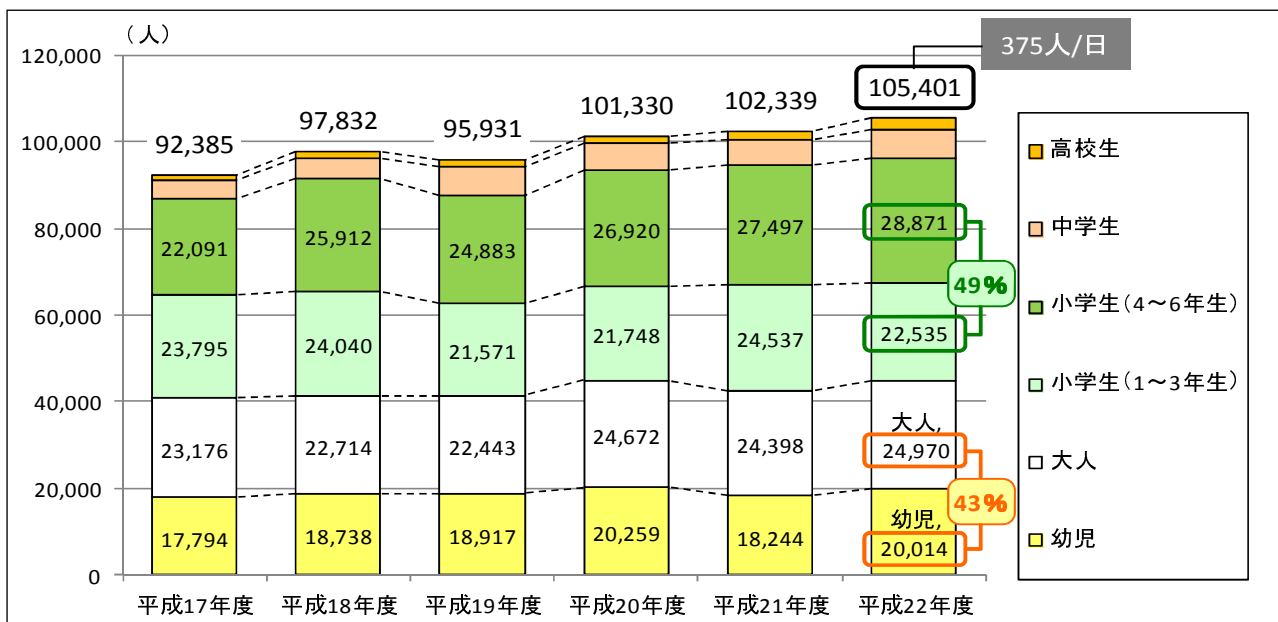
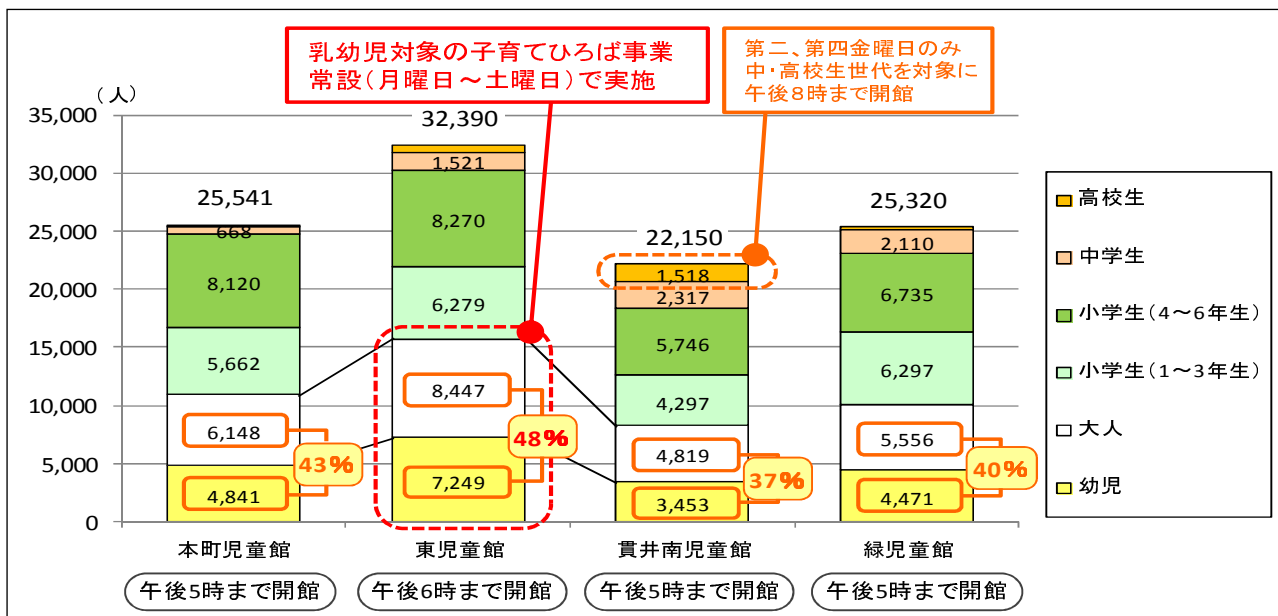


図 施設別利用者数（平成 22 年度）



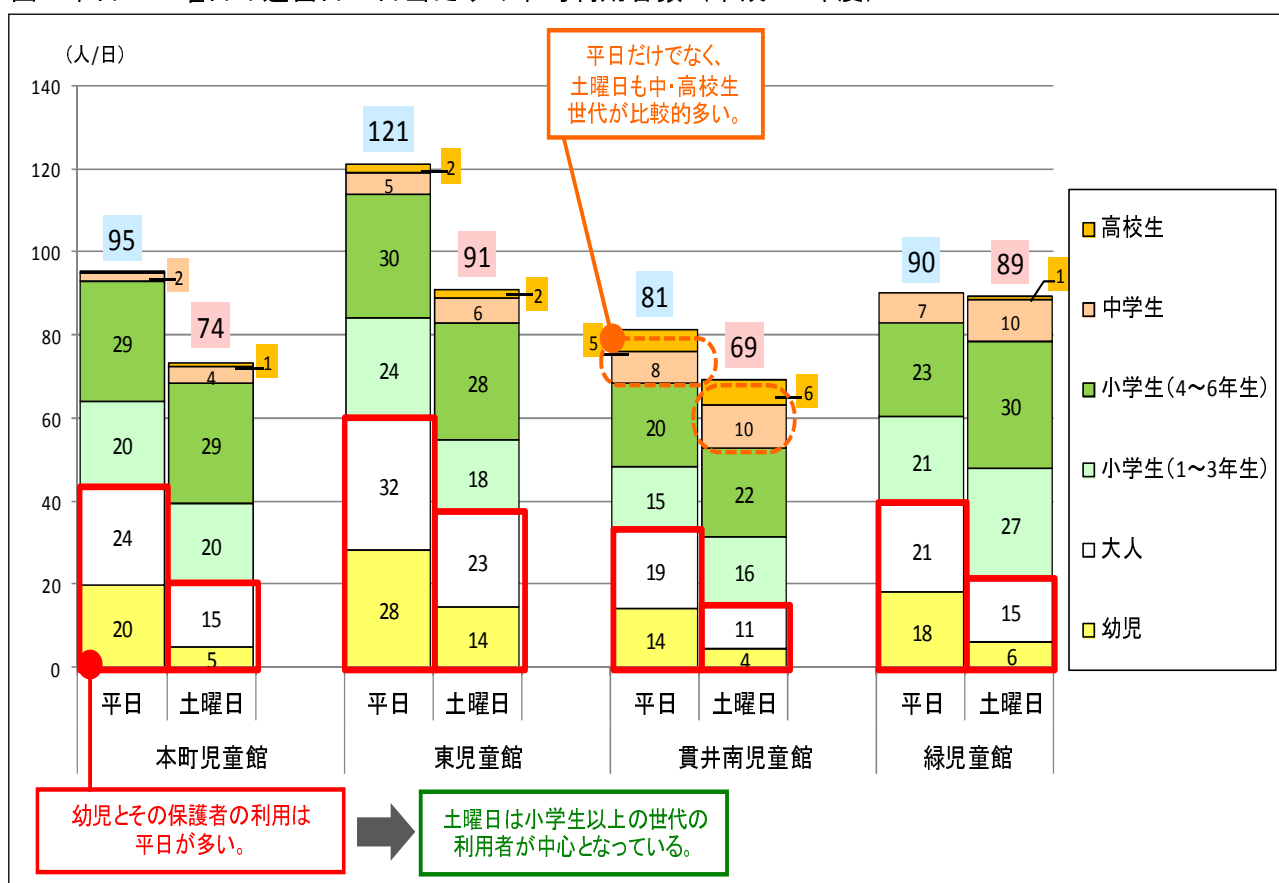
## ② 施設別 平日・土曜日の利用者数

施設の利用者数を平日・土曜日の運営 1 日当たりの平均利用者数で見ると、利用が最も少ない貫井南児童館は平日が 81 人/日、土曜日が 69 人/日となっています。利用が最も多い東児童館は平日が 121 人/日、土曜日が 91 人/日となっています。子育てひろば事業を常設している東児童館は他の施設と比べると平日の利用者が多いことが分かります。

4 館全施設で、土曜日利用に比べ平日利用が多くなっています。

平日と土曜日の利用者の内訳をみると、平日は幼児とその保護者の利用が約半分程度を占めていますが、土曜日は小学生世代を中心とした利用となっています。東児童館は土曜日も「子育てひろば」事業を常設して行っているため、他の施設に比べ土曜日の幼児とその保護者の利用者数が多くなっています。

図 平日・土曜日の運営日 1 日当たりの平均利用者数（平成 22 年度）



※土曜日の利用者数は、5月5日の利用者数を含めて算出しています。

※合計数値は小数点第一位を四捨五入して整数とし、内訳については合計に合わせて端数処理を行っています。

(3) 運営状況

① 運営人員

児童館は直営で行っていますが、東児童館は業務運営部分を委託しています。

業務運営を委託している東児童館を除いた3館では、市の一般職員、嘱託職員及び臨時職員が1館当たり3.4人～3.5人従事しています。事業別の内訳をみると、施設維持管理等が0.75人、事業運営が2.65人～2.75人となっています。

業務委託している東児童館は委託先事業者正規職員及び非常勤職員が計7.0人従事しています。

表 運営人員

(人)

			本町児童館	東児童館	貫井南児童館	緑児童館	合計
			市の直営	市の直営 (業務委託)	市の直営	市の直営	
施設維持管理等	直営	一般職員	0.50	—	0.75	0.75	2.00
		嘱託職員	0.25	—	—	—	0.25
	計	0.75	—	0.75	0.75	2.25	
事業運営	直営	一般職員	1.50	—	2.25	2.25	6.00
		嘱託職員	0.75	—	—	—	0.75
		臨時職員	0.50	—	0.40	0.40	1.30
	計	2.75	—	2.65	2.65	8.05	
合計	直営	一般職員	2.00	—	3.00	3.00	8.00
		嘱託職員	1.00	—	—	—	1.00
		臨時職員	0.50	—	0.40	0.40	1.30
	委託	正規職員	—	3.00	—	—	3.00
		非常勤職員	—	4.00	—	—	4.00
計	3.50	7.00	3.40	3.40	17.30		

② 運営体制

本町、貫井南及び緑児童館は、平日午前 9 時から午後 5 時まで市の一般職員、嘱託職員及び臨時職員の 2 人～5 人（1 館当たり）が従事しています。土曜日と同様の体制で 1 館当たり約 3 人が従事しています。貫井南児童館では、第二、第四金曜日のみ中・高校生世代を対象に、午後 8 時まで開館しています。

業務委託している東児童館は平日午前 9 時から午後 6 時まで正規職員と非常勤職員の 2 人～5 人が従事しています。水曜日のみ中・高校生世代を対象に午後 8 時まで開館しています。土曜日と同様の体制で 1 館当たり 2 人～5 人が従事しています。

図 運営体制

	9:00	17:00	20:00
<b>本町・貫井南・緑 児童館</b> 平日(月～金) 運営体制 1施設当たり 約2～5人	一般職員 2～3人(本町児童館は2人) 嘱託職員 1人(本町児童館のみ) 臨時職員 0～2人	一般職員	貫井南児童館は 第2、第4金曜日 のみ中・高校生 世代を対象に開館
<b>本町・貫井南・緑 児童館</b> 土曜日 運営体制 1施設当たり 約3人	一般職員 3人(本町児童館は2人) 嘱託職員 1人(本町児童館のみ)		

	9:00	18:00	20:00
<b>東児童館</b> 平日(月～金) 運営体制 1施設当たり 約2～5人	委託先 正職員 2～3人 委託先 非常勤職員 1～2人	1～2人 1人	水曜日のみ 中・高校生世代 を対象に開館
<b>東児童館</b> 土曜日 運営体制 1施設当たり 約2～4人	委託先 正職員 2～3人 委託先 非常勤職員 0～1人		

※5月5日（祝日）の運営体制は、土曜日の運営体制に含む。



(4) コスト状況

児童館4館の年間トータルコストは、1億1,769万円(1館当たり平均2,942万円)です。内訳は、施設にかかるコスト(光熱水費・建物管理委託料等)2,657万円(約23%)、事業運営にかかるコスト(人件費・その他物件費等)8,585万円(約73%)、減価償却相当額527万円(約5%)となっています。

児童館は無料施設のため、利用料収入等はありません。

表 施設別公共施設トータルコスト計算書(平成22年度)

I.現金収支を伴うもの		(千円)				
【コストの部】		本町児童館	東児童館	貫井南児童館	緑児童館	合計
施設にかかるコスト	一般職員人件費	3,245	0	4,868	4,868	12,981
	再任用職員人件費	0	0	0	0	0
	修繕料	94	262	636	878	1,869
	改修費	0	1,663	130	0	1,793
	光熱水費	870	771	761	890	3,292
	委託料	534	478	4,103	600	5,714
	使用料及び賃借料	0	0	0	0	0
	その他物件費	274	242	116	290	923
	施設にかかるコスト	5,017	3,416	10,614	7,526	26,573
事業運営にかかるコスト	一般職員人件費	13,322	0	19,983	19,983	53,288
	再任用職員人件費	0	0	0	0	0
	嘱託職員人件費	2,219	0	0	0	2,219
	修繕料	0	0	52	71	123
	委託料	0	26,647	0	0	26,647
	使用料及び賃借料	75	74	8	74	231
	負担金補助及び交付金	6	6	6	6	24
	物件費(臨時職員費)	822	0	581	485	1,888
	その他物件費	370	214	504	339	1,427
	事業運営にかかるコスト	16,814	26,941	21,134	20,958	85,847
現金収支を伴うコスト 計		21,831	30,357	31,748	28,484	112,420
【収入の部】						
収入	使用料収入	0	0	0	0	0
	諸収入	0	0	0	0	0
収入の合計		0	0	0	0	0
II.現金収支を伴わないもの						
コスト	減価償却相当額	1,205	1,825	535	1,701	5,266
	不納欠損額	0	0	0	0	0
収入	収入未済額等	0	0	0	0	0
III.総括						
コストの部合計(トータルコスト)		23,036	32,182	32,283	30,185	117,686
収支差額(ネットコスト)		23,036	32,182	32,283	30,185	117,686

事業運営にかかるコスト 8,585 万円の内訳をみると、一般職員人件費が 5,329 万円と事業運営にかかるコストの約 62%を占めています。その他に東児童館の業務運営委託料 2,665 万円等がかかっています。

施設にかかるコスト 2,657 万円のうち、一般職員人件費が 1,298 万円と施設にかかるコストの約 49%を占めています。施設の修繕料（187 万円）や改修費（179 万円）は施設にかかるコストの約 14 %となっています。

施設別のトータルコストをみると、本町児童館 2,304 万円から東児童館 3,218 万円までとなっています。本町児童館は他の施設と比べ一般職員数が少なく、嘱託職員、臨時職員が多いため、トータルコストが低くなっています。

業務委託をしている東児童館は委託料を含め 3,218 万円で、直営の貴井南児童館や緑児童館と大きな違いはありません。

図 児童館 全館トータルコスト（平成 22 年度）

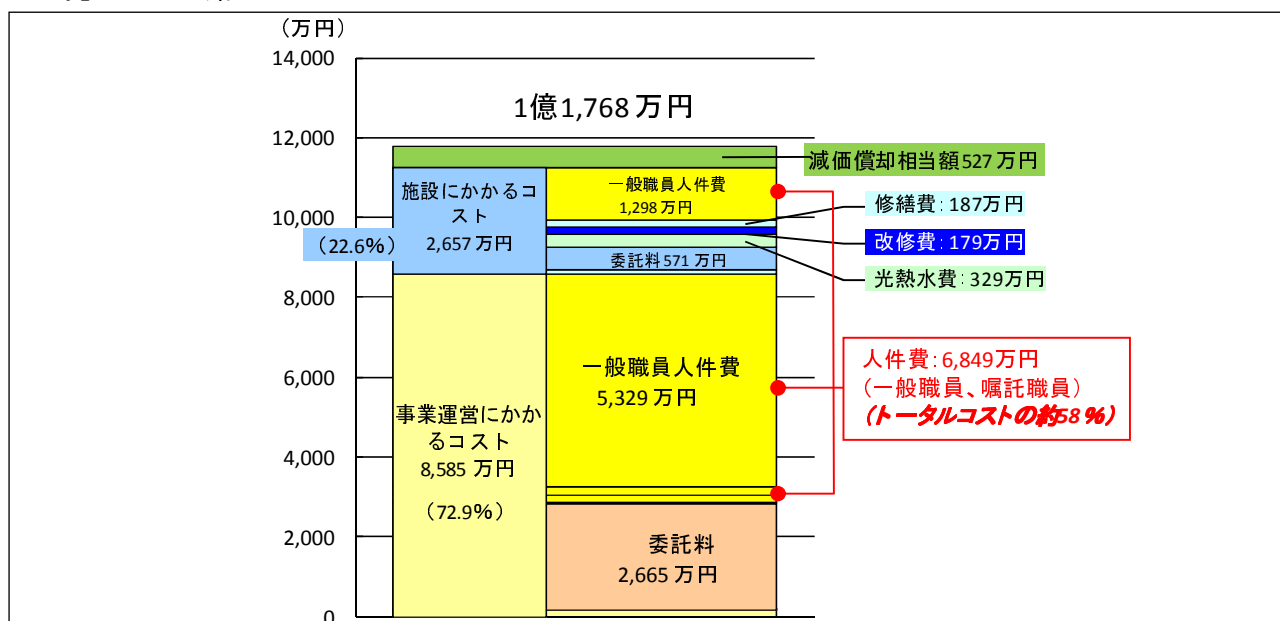
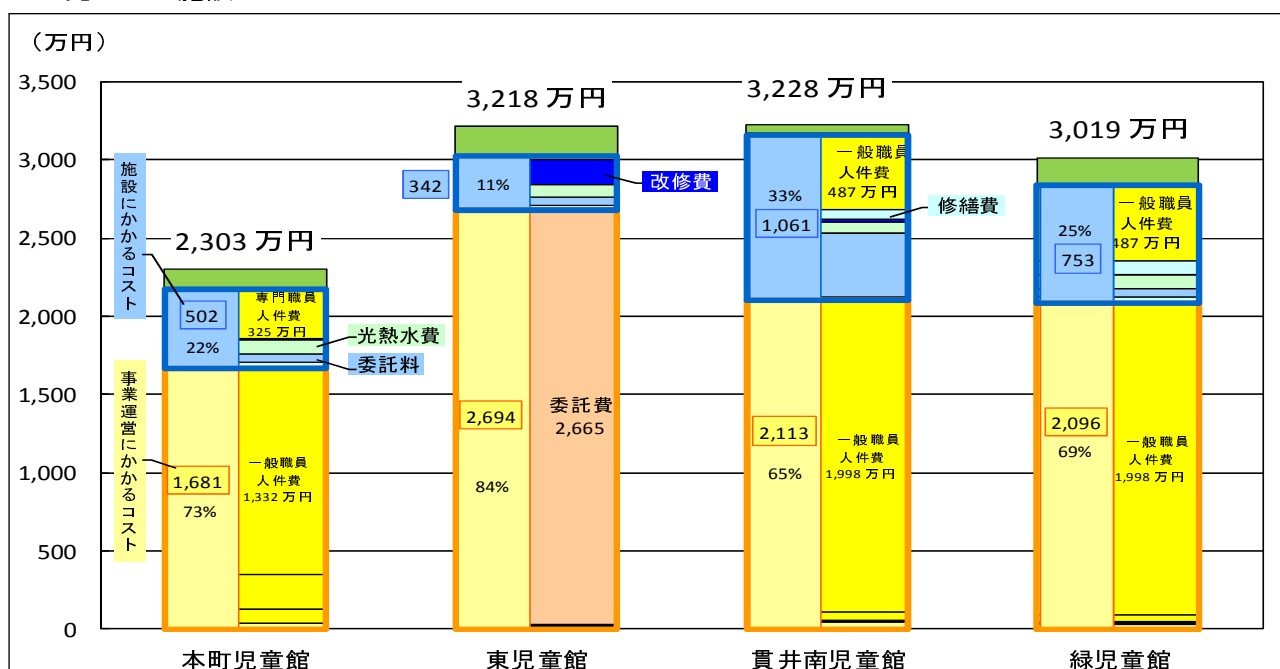


図 児童館 施設別トータルコスト（平成 22 年度）

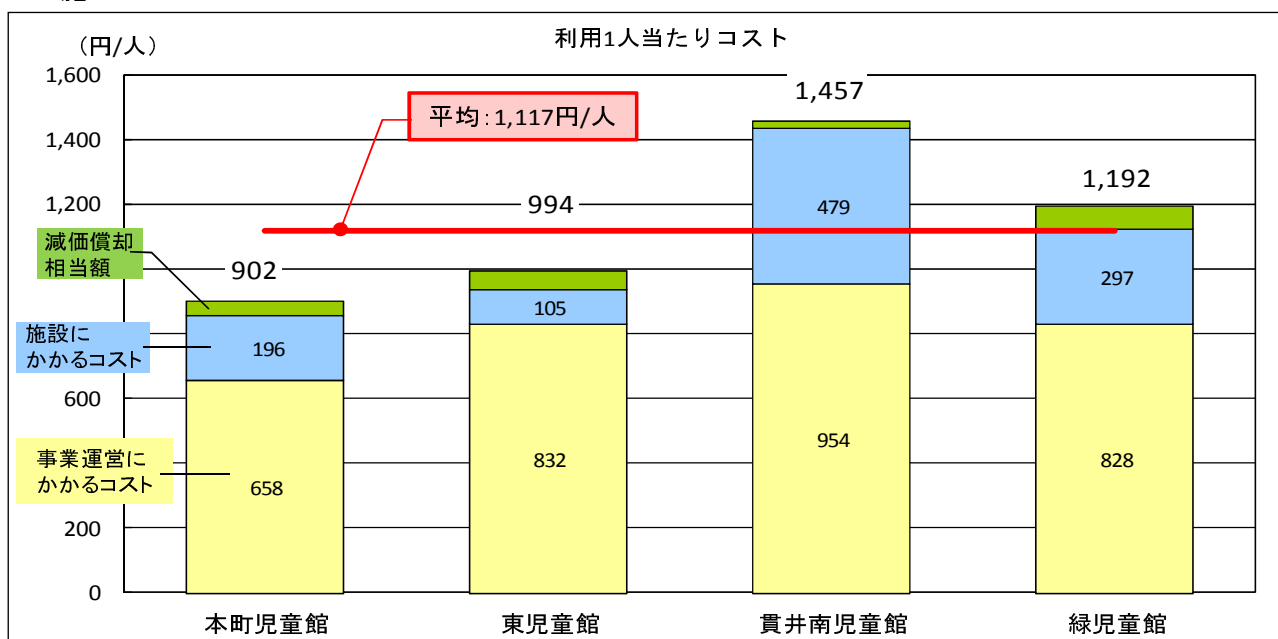


### 3. 評価・分析

#### (1) 利用者数とトータルコストの関係（利用者1人当たりコスト）

年間利用者数とトータルコストから利用者1人当たりにかかるコストを算出すると、平均は1,117円/人です。施設別では、本町児童館の902円/人が最も低く、利用者数が最も少ない貫井南児童館の1,457円/人が最も高くなります。

図 施設別 利用者1人当たりコスト



### ■ 今後の課題

#### 建物の耐震安全性・老朽化状況からみた課題

- 貫井南児童館を除く3施設が築20年以上を経過しており、今後建物の劣化等が見られるようになり、修繕等に費用がかかることが予測されるため、計画的な修繕・改修等の老朽化対策を検討し、効率的な施設保全を行うことが必要です。

#### 運営面からみた課題

- 利用状況の内訳をみると、就学前の乳幼児とその保護者及び小学生の年代が中心となっており、子育て支援施設として今後も利用が増加することが予測されます。各施設の利用者数をみると子育てひろば事業を常設している東児童館の利用が比較的多くなっています。東児童館の運営人員は延7人と他の児童館より多くなっていますが、施設別トータルコストは業務委託料含め貫井南児童館や緑児童館と同程度となっているため、利用者1人当たりのコストは他の2館に比べ低くなっており、効率的となっています。今後も利用者ニーズに合った効率的・効果的なサービスを行うことが必要です。